



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

# 機構ニュース

Vol.248 2024 February

## 今月の記事

### Top News

- 「国立大学法人の財務経営等に関する取組事例の報告会」を開催・・・・・・・・・・1

### 調査研究

- 研究開発部教員紹介・・・・・・・・・・5

### 学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

科目等履修生制度の開設大学一覧

- 令和6年度版を当機構ウェブサイトに掲載・・・・・・・・・・3

### 主要行事日程

- Schedule（2月～3月）・・・・・・・・・・7

### 評価事業

機関別認証評価等について

- 評価結果（案）の取りまとめ・・・・・・・・・・4

# Top News

## ○「国立大学法人の財務経営等に関する取組事例の報告会」を開催

当機構は、財務マネジメント機能の向上等の国立大学法人の運営基盤の強化促進への支援をミッションに掲げ、財務に関する情報の収集や分析結果の提供等に取り組んでいます。このような活動の一環として、関係国立大学法人等から、戦略的経営の実現や教育研究機能の一層の向上に資する財務経営等に関する様々な取組についてご紹介いただくことで、国立大学法人全体における財務マネジメント機能の一層の向上に資することを目的に、昨年度に引き続き「国立大学法人の財務経営等に関する取組事例の報告会」を令和6年1月19日（金）に開催しました。

当日は6名の講演者の方から以下のテーマで講演いただきました。

- ・文部科学省「規制緩和と財源多様化を通じた大学の財務基盤強化について」
- ・岩手大学「財務基盤強化のための取組について」
- ・東北大学「東北大学における業務のDX推進」
- ・当機構「国立大学法人における資金運用の制度と現状について」
- ・神戸大学「神戸大学における資金運用に係る取組（認定基準第3及び第4-2の取得）について」
- ・長崎大学「長崎大学の資産運用の取組について」

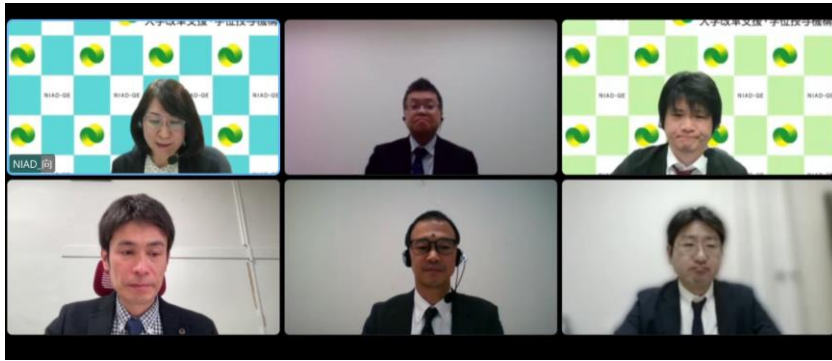
国立大学法人職員の方々を中心に300名を超える参加がありました。講演後は活発に質疑応答が交わされ、参加者からは「他大学の取組を知る貴重な機会となった」「他大学の状況を知って、自大学の取組を認識できた」などの感想をいただきました。

国立大学法人における自律的な経営環境の確保・財源の多様化について①

- 2004 国立大学が法人化
- 2005 官制のインセンティブを醸成して機動的な取組を可能にした
- 2013 大学協同ベンチャー支援会社への出資を可能にした
- 2016 国立大学が実施できる「収益を再投資する事業」を明確化した
- 2017 学術活動に不可欠な研究設備・施設整備、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした
- 2018 学術活動に不可欠な研究設備・施設整備、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした
- 2020 学生や教職員の研究活動への参画を促進し、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした
- 2021 共同研究や官民連携に関する取組を促進し、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした
- 2022 コーポレート・ガバナンスを推進し、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした
- 2024 研究活動に不可欠な研究設備・施設整備、研究活動に不可欠な研究費の確保を可能にした

後述にて説明

講演の様子（片柳文部科学省国立大学法人支援課課長補佐）



講演者と司会者

(左上より：向大学運営連携課長、下屋敷岩手大学財務課長、上原大学連携・支援部長、  
左下より：藤本東北大学デジタル変革推進課長、小西神戸大学財務戦略課長、藤田長崎大学政策企画  
部長)

## 学位授与事業

### 短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

#### ■科目等履修生制度の開設大学一覧

##### ○ 令和6年度版を当機構ウェブサイトに掲載

当機構では、科目等履修生として学習することを希望する方々が、大学の学部や大学院研究科を選ぶ際の参考となるよう、国公立大学を対象として科目等履修生制度の開設状況の調査を行い、その回答結果を取りまとめた上で当機構の[ウェブサイト](#)で公表しています。

原則として令和6年度の開設状況等について掲載するようしておりますが、調査の時点で未定の場合には、前年度の実績を掲載しています。

なお、当機構の学位授与事業に関連して、科目等履修生に対し特別なプログラムを設けている大学や、高等専門学校を卒業後に、専門に関係する学修を継続したい方に向けて、通信教育課程を開設している大学も紹介しています。

## 評価事業

### 機関別認証評価等について

#### ○ 評価結果（案）の取りまとめ

令和5年度の認証評価については、令和5年7月から令和5年12月にかけての書面調査及び訪問調査を基に、それぞれの評価部会において「評価結果（原案）」が作成され、令和6年1月に開催の大学機関別、高等専門学校機関別及び法科大学院の各認証評価委員会での審議を経て、「評価結果（案）」が取りまとめられました。

「評価結果（案）」は、評価の透明性と正確性を確保するため、各受審校に通知され、意見の申立ての手続を経た後、各認証評価委員会において「評価結果」が確定されることとなります。

「評価結果」は、当該受審校及び設置者へ通知され、文部科学大臣に報告されるとともに、「令和5年度認証評価実施結果報告書」として、当機構ウェブサイトへの掲載により、広く社会に公表されることとなります。

## 調査研究

### ○ 研究開発部教員紹介

宮崎 和光 教授



当機構に平成 11 年 10 月に採用されてから、ふた回り以上の年月が過ぎました。着任当時、「機構ニュース」第 18 号に「新任のご挨拶」を掲載していただきました。また、昨年末の第 246 号にも一筆書か

せていただいたばかりなので、それらとなるべく重ならないような内容を書きたいと思います。

「機械学習」「人工知能 (AI)」を専門に研究を続けています。私が学生だった頃は、ちょうど第何回目か (第 2 次と言われることも多いようですが) の、AI ブームが去った後で、AI という、正直、眉唾物っぽい印象を与える分野でした。他の先生から半ば冗談交じりに「論文はどこに発表するの?まさか人工知能学会誌じゃないよね」と言われたこともあります。ここ数年の AI ブームからすると信じられない話かもしれませんが事実です。

その頃、確か人生 2~3 度目位の学会発表の懇親会の場だったと思いますが、とある先生から「他の人がやっていない分野をやるのがいいんだよ」と励まされたことが今でも強く印象に残っています。私の発表を聞いてくださり、仰っていただけたのだと思いますが、とても勇気づけられました。それほど当時 AI はマイナーな分野でした。

そもそも AI に興味を持ったのは、高校時代「マイコン人工知能」という本に出会い「AI ってこんな仕組みなの??」と思い、自分でもやってみたくになったことが最大のきっかけです。ちょうどその頃、家庭用のパソコンが比較的安価に入手できるようになったのも良いタイミングでした。両親にねだって、一番安い(といってもまだまだ高価でしたが)パソコンを買

ってもらい、日夜、弟と一緒に雑誌に載っていたゲームのソースコードの入力に励んでいました。ゲームを遊びたい一心に。

そのうち自分でも作ってみたくなり、雑誌に投稿したりして楽しんでいましたが、当時は誰もプログラミングなんて教えてくれず、すべて自己流でした。そんな感じだったので、私の中ではプログラミングというものは、ゲームを遊べる楽しいもので、(今でもそうですが) プラモデルや模型を作っているのと同じ感覚を受けるものです。だんだん組み上がり最後に希望通り動いたときには何ともいえない感動があります。バグが超えがたいものだ、尚更、燃えます。

基本はフルスクラッチで一から全部自分で書きます。さすがに最近ではライブラリこそ利用しますが、仕様書なんて面倒なものは一切書きません。書いているうちに次々よいアイデアが浮かんできたりするので、邪道だと言う人も多くいると思うけれども、ずっとこのスタイルです。

一方で、業務用に決まった作業を外注する際には、仕様書をきっちり書きます。「仕様書が書ける=自分でも実装できるが時間がない」だと思いますが、自分で書くのと違って、発注後に「間違いに気づいて軌道修正」というわけにはいかないのです、たいへん気がつかれます。それでも間違いはゼロにはできないので、できる限り、こちらで改変可能な契約にしてもらっています。

もともと新しいもの好きで、機械も好きで、そのうちパソコンに夢中になり、長らく NEC のパソコンを愛用していました。当時はまだインターネットは普及しておらず、PC-VAN や NIFTY-Serve といったパソコン通信サービスがメインでしたが、パソコン

同士が接続されるのは本当に感動で、夜な夜な繋いでいました。そんな時代の流れの中で、NECの独自規格のパソコンが、DOS/Vに負けてしまったのは今でも残念に思っています。ちなみに私の車のナンバーは、当時のNECのパソコンにちなんだもので通しています。

こう書くと、コンピュータ好きの、きっちり動くものが好きな冷たい人と思われそうですが、実は生き物も大好きで、ずっと何かしら飼っています。そもそも人工知能に興味を抱いたのは、ヒトをはじめとした生物の知能に興味があったからです。いろいろ飼いましたが、哺乳類、鳥類は何らかの人と共有できるものを強く感じます。その結果、失ったときのダメージが大きく、今では魚しか飼っていません(お魚にはたいへん失礼な話ではありますが)。

魚の場合、基本的には、繁殖も狙います。プレコというナマズの仲間の繁殖には、かなり力を入れていました。一時は自宅に、大小10本以上の水槽があったのですが、東日本大震災のときに床が水浸しになり「これはまずい」と思い、一気に減らした経緯があります。

それ以来、屋内の水槽は2本だけにして、あとは瓢箪池を庭に埋めて錦鯉を飼って楽しんでいます。錦鯉は「動く宝石」と言われるだけあり、本当に美しい魚です。綺麗な個体は選別に選別を重ねられているためか、普通の金魚に比べて圧倒的に弱いものが多いようです。自分の飼育技術の未熟さから、これまで何匹も死なせてしまいました。全滅も経験しました。今では、何とか3年位生かせるようになりましたが、まだまだだと思っています。ちなみに、数年前からブームの改良メダカにも手をだしましたが、メダカはやはり小さい、年を取って目が弱ってくると、鯉位のサイズがちょうどよいです。

鳥も飼うことはやめましたが、見るのは大好きで、バードウォッチング歴は長いです。丘陵地帯をよく歩くので健康にもよいです。それから機械好きにはカメラの進化がたまりません。400mmの超望遠レンズを手持ちで振り回し撮るスタイルですが、始め

た頃はブレブレで、新婚旅行で行った小笠原の母島で撮影した「メグロ」は、今でも良い笑いの種になっています。

ここまで書いていて、自分の好きなことばかりで機構のことにほとんど触れていなくて恐縮な気分になりました。このように実は根っからの新しいもの好きなので、多くのものに興味があります。そういう意味では、当機構の学位授与事業は様々な分野の学修成果に触れられ、また、つねに新しい刺激があるので、正に自分に合っていると思っています。これからも少しでも機構のお役に立てるよう頑張る所存です。

---

みやざき かずてる 博士(工学)(東京工業大学)

平成11年10月から 本機構助教授

平成19年4月から 准教授

令和2年10月から 教授

## 主要行事日程

### ○ Schedule

2月

日	行事名	担当課
7日	<a href="#">大学・高専機能強化支援事業 令和5年度機能強化会議</a>	事業推進課
14日	<a href="#">大学ポータルサイト運営会議</a>	評価企画課
19日	<a href="#">学位審査会（令和5年度第4回）</a>	学位審査課
19日	大学機関別認証評価検討ワーキンググループ（第5回：書面審議）	評価支援課
29日	<a href="#">令和6年度大学・高専機能強化支援事業 公募締切②</a>	助成課
中旬～下旬頃	令和5年度大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第4回）	事業推進課

3月

	行事名	担当課
1日	国立大学法人等評価実務担当者説明会（東京会場）	国立大学 評価室
8日	国立大学法人等評価実務担当者説明会（大阪会場）	国立大学 評価室
12日～4月5日	令和6年度4月期学位授与申請（データ入力）受付期間	学位審査課
15日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第4回）	評価支援課
15日	<a href="#">大学改革支援・学位授与機構研究報告会「これからの大学評価と学位授与に向けて」</a>	研究開発部
18日	大学機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課
19日	法科大学院認証評価委員会（第3回）	評価支援課
19日	令和5年度大学等の質保証人材育成セミナー（第3回）	評価企画課
29日～4月5日	令和6年度4月期学位授与申請（書類送付）受付期間	学位審査課





独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

